

＜令和2年度 第2回社会教育委員の会議 結果＞

会議名称 令和2年度 第2回社会教育委員の会議
開催日時 令和2年6月10日（水）
開催場所 書面会議

＜報告事項＞

〔1〕社会教育部の組織機構及び事務分掌について

質疑・意見 なし

〔2〕令和元年度社会教育施設の利用状況について

・質疑（高田委員）

留辺蘂自治区の体育館の利用者数が減少している原因は何か。

・回答（留辺蘂教育事務所生涯学習課）

1月末までについて卓球の利用と70歳以上の利用者の減少500人程度と多く、全体で前年比約2,000人の減少となりました。

2月は後半、北見市でコロナウイルスのクラスター発生もあり、利用者が活動自粛したため。約1,000人の減少。3月は前年3,387人と30年度で最も多い利用月であったのに対し、令和元年度は休館の関係で24人の利用しかなく、1年間では約6,000人の減少となりました。

〔3〕令和元年度社会教育関係団体に係る補助金交付状況について

・質疑（亀丸副委員長）

令和2年度は北見カーリング協会への補助金の交付はないのか。

・回答（スポーツ課）

これまで、河西建設カーリングホールの施設管理や事業補助として、北見カーリング協会へ補助金を交付しておりましたが、現在、建設中の新北見カーリングホールの10月供用開始により、河西建設カーリングホールの施設管理等が不要となることから、令和2年度より補助金の予算計上は行いませんでした。

〔4〕令和2年度社会教育関係団体に係る補助金交付状況について

質疑・意見なし

〔5〕令和2年度社会教育教育事業計画について（資料1）

・意見（平山委員）

「中止」や「廃止」になった事業はあるか。令和2年度の計画には含まれないことは理解できるが、補足事項等として示していただくとわかりやすい。

・回答（生涯学習課）

令和2年度に「中止」や「廃止」となった事業はございませんが、単年度事業など、事業の「終了」により、事業計画から削除した事業がございます。

次年度以降、より詳細な報告ができるよう検討してまいります。

・質疑（小田委員）

資料 p23「遺跡の保護維持活動の推進」について、遺跡の整備とはどのような内容の整備なのか。運営管理、体験学習、見学会の内容はどのようなものか。

東京大学では、いつから、どのような研究をしていて、研究の結果、何がわかったか。今後のところ遺跡の森では何を目指し、どのようにしていく予定か。

・回答（ところ遺跡の森）

史跡常呂遺跡整備

現在常呂自治区には 130 か所ほどの先史時代(明治時代以前)の遺跡が確認されていますが、特に保存状態が良好で重要な区域約 128 万㎡が国(文化庁)によって「史跡常呂遺跡」として指定されています。この史跡常呂遺跡を適切に保存しながら活用し、将来に継承していくための整備を進めております。近年では、史跡常呂遺跡西端部の「ところ遺跡の森」の老朽化した諸施設(復元竪穴住居等)の再整備を行いつつ、史跡常呂遺跡東端部の「トコロチャシ跡遺跡群」におけるオホーツク文化期(8・9 世紀)やアイヌ文化期(17・18 世紀)の遺構の見学・散策を可能とする新たな整備の計画を進めております。これによって縄文時代・続縄文時代・擦文時代(ところ遺跡の森)とオホーツク文化期・アイヌ文化期(トコロチャシ跡遺跡群)の遺構をめぐりながら北海道オホーツク地域の各時代の歴史・文化を学べる環境を整えることを目指しております。

ところ遺跡の森運営管理

史跡常呂遺跡の一部として公開されている「ところ遺跡の森」を維持管理し、資料の保存管理・展示解説、体験学習、見学会・講演会等の事業によって、地域の歴史を学び体験する場として運営しております。また、「ところ遺跡の森」の諸施設(埋蔵文化財センター等)は、常呂自治区に所在する埋蔵文化財(遺跡)の保護と各種開発を調整・協議し調査や記録保存を行うための拠点ともなっています。

ところ遺跡の森体験学習

勾玉づくりや土器づくり、実際の遺跡出土遺物の観察・レクチャー・保存整理作業等を通じて先史時代の文化や生活について学び、考えることを目指しています。基本的には各種学校やサークル等の団体(要予約)を対象としています。

遺跡発掘見学会

学術的な発掘調査の現場や地表に残る竪穴住居跡の見学等を行っています。

また、可能な場合は、発掘調査の体験も行います。実際の遺構・遺物に触れて郷土の歴史や考古学の面白さを知っていただくことを目指しています。

東京大学の研究

東京大学は、昭和 32 年(1957 年)から常呂地域での本格的な調査研究を開始し、昭和 40 年代(1965 年以降)に各種施設(常呂実習施設等)が設置されました。以降、学術調査と教育活動が継続され、約 2 万年前の旧石器時代から 17・18 世紀のアイヌ文化期までに及ぶ北海道先史時代(無文字社会)の基礎資料・データの蓄積、及びその歴史と文化の解明に考古学分野における多大な貢献を果たしてきました。

ところ遺跡の森の今後

常呂地域には国指定史跡常呂遺跡をはじめ、北海道の先史時代の歴史・文化を知ろうと非常に重要な遺跡がのこされており、こうした遺跡を調査研究しながら保護し将来の世代に継承していくことは、大切な責務であると考えております。そのた

めには現在の世代の幅広いご理解が不可欠であることから、地域の遺跡や歴史・文化とその価値を多くの方々に知っていただくために、東京大学とも連携しながら、遺跡及び出土遺物を教育・学習や観光等の様々な形で活用できる資源とすることを目指していきたいと考えております。

・意見（小田委員）

常呂自治区の学校では授業でところ遺跡を見学する機会があると聞いたが、他の地域の生徒にもところ遺跡を知ってほしい。北見市民がもっとところ遺跡を知るきっかけになるのではないか。

また、ところ遺跡が北見市の観光として発展するよう、ぜひとも観光課や観光協会と協力をして動いてほしい。

・回答（ところ遺跡の森）

ところ遺跡の森は、北海道立ネイパル北見(旧少年自然の家)と隣接していることから、各種学校の研修等の際にご利用いただくことが多く、常呂以外の北見市内の学校にもご利用いただく機会がありますが、ご利用いただいていない学校もあるので、PRや情報提供を進めていきたいと考えております。

ところ遺跡の森は、地域の遺跡・文化財保護の拠点となる施設であります。先述のように今後はその活用も重要な課題となっていくことから、観光のより有効な資源となることも目指していきたいと考えております。

・意見・質疑（亀丸副委員長）

コロナ禍で健康や安全を守るために事業を延期・中止にするのは仕方がないが、それによって事業の予算が縮小・削減されることはないようにしてほしい。今の状況だからこそ、心身ともに豊かになるための事業を提供してほしい。感染対策については何か基準を設けているか。

・回答（生涯学習課）

令和2年度の社会教育事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした事業も多く、今後についても実施未定の事業もあり、状況を確認しながら判断をしていくこととなりますが、内容や方法を変更して実施を予定している事業もあります。

各関係団体等と協議をしながら、限られた方法の中で可能な限り事業の実施に向けて取り組んでいきたいと考えています。

また、「地域おこし協力隊」が主体となって、生涯学習活動の魅力をもPRする動画配信事業の実施も予定しており、現在制作を進めているところです。

次年度以降は、再び通常の事業が実施できるよう、事業予算等についてもこれまで通りの予算を計上していくこととします。

感染対策については、国や道の基本方針に基づき対策を講じることとしています。

〔6〕令和2年度オホーツク管内社会教育委員連絡協議会役員会（総会）について

質疑・意見 なし

<協議事項>

〔1〕第2次北見市社会教育計画に係る令和元年度事業点検・評価について

・質疑（亀丸副委員長、高田委員）

チェック項目の「参加者が増加しているか」、「広く周知されているか」の部分で、「△」が目立つ。少子高齢化、人口減少、個人の興味の多様化などは仕方がない要因だが、今まで通りの内容を変えずに実施していくことが難しくなってくると思う。何か対策はあるか。

・回答（生涯学習課）

主にチラシやポスター、広報誌などのほか、ホームページやSNSなどの媒体を利用して周知を図っていますが、参加者の増加に結び付いていないのが現状だと考えております。新型コロナウイルスの感染防止対策として「オンライン（インターネット）」の利用が増加しており、周知を含め事業の開催方法自体を検討する必要があると考えます。

・意見（佐藤委員）

全体的に周知を課題としている事業が多いと感じる。新規のユーザー、若い世代へどのようにアプローチしていくかが重要だと思う。従来通りの折り込みチラシや広報への掲載、社会教育施設へのポスター掲示では情報が届かないユーザーがいるので、SNSでのコミュニケーションや、魅力あるページ・タイムラインづくりを継続して行うなど、若い世代の見ているところへ出向くことが有効だと思う。スマートフォンを1人1台持つ今の時代に、ネットによる繋がりを社会教育現場で積極的に活用していくことが重要だと考える。

・回答（生涯学習課）

多様化する若い世代の興味・意識を引くため、カフェや大型スーパーなど若年層の目に入りそうな場所にチラシを配置するなど工夫しています。

周知に用いる媒体は紙とインターネットがほとんどであります。それらをより有効に使えるような手法について検討してまいります。

〔2〕第3次北見市社会教育計画策定委員会の設置について

質疑・意見 なし

<その他、全体を通して>

・意見（佐藤委員）

当面、開催時期や開催方法の見直しや変更が必要となる事業が多く出てくる中、中止や延期になったからと、歩みを止め、開催ができるまで待っているだけでは、時間だけが過ぎてしまい社会教育の後退につながってしまうので、今だからこそできること、やるべきことを考え、次につなげていくことが社会教育全体の発展につながると思う。